



立元 隆裕さん

- ・職業：南部町地域おこし協力隊として株式会社 福成農園で農業をしている（1年目）
- ・出身：大阪府柏原市
- ・趣味：料理をすること

大阪府出身の立元さんは、関西出身なだけあってよく喋ってくれる。

今回は、南部町地域おこし協力隊として就農している株式会社 福成農園にて農作業をしているところにお邪魔して取材させていただいた。

“きっかけは農業研修から”

彼と初めて出会う人はまず疑問に思うだろう。

「なぜ南部町へ？」

その答えは、農業大学校での研修にある。

鳥取県立農業大学校で2年間の農業研修プログラム“アグリチャレンジ研修”を受けた立元さん。

そこで出会った先生から南部町の地域おこし協力隊の制度を使って就農できることを聞き、とんとん拍子で移住することが決まった。

大阪生まれで都会っ子のイメージのある立元さんだが、幼い頃から自然に囲まれているのが好きで、自分の肌に合っているのも田舎の環境だという。

中学や高校では生物や自然に関しては熱中して勉強していたそう。

そんな感覚を持った立元さんだからこそ、自然と常に触れ合ってもらえる仕事である農業に興味を持ったのも不思議ではないのかもしれない。

南部町に来て不便なことは？と問いかけると、

「大阪よりも住みやすい。車とネット環境さえあれば南部町は大丈夫。全く不便ではない。」

そう語っている。

“人との繋がりが大事”

彼から農業の話を知っていると、しきりにこのワードを言っていた。

「農業は一人じゃできない。人との繋がりが鍵になる。」

農業を始めるにあたって、まずは土地、そしてたくさんの技術習得や機械設備が必要になってくる。

その時に生きてくるのが“繋がり”だ。

「農業は困難だらけ。困った時に手を貸してくれたり、相談に乗ってくれたりする人がいるととても助かる。」

それを体現するかのように、農業関係の繋がりはもちろんのこと、地域のお祭りやイベントなどに積極的に参加をして繋がりを作っているようだ。

「何よりも、人と繋がれる機会は純粋に楽しい。」

彼の人好きな性格が伝わってくる。

“将来は自分で農業をやること”

立元さんに夢は？と尋ねると、

「自分で農業をし、ゆくゆくは会社も作りたい。」

と語ってくれた。

「そのために、地域おこし協力隊の任期中にはしっかり下地づくりをしたい。」

具体的には、お金を貯めることや技術習得、そして先ほども言っていた繋がりづくり。

彼には将来を見据えたしっかりとしたプランがある。

「今は部分的な作業で学ばせてもらっている。この任期中で成し遂げたいのは1から10まで全部自分で作ってみたい。」

それを横で聞いていた若社長さんは、

「鳥取で農業という産業に目をつけてやるのはとても面白いことだと思う。土地が広いし、人の繋がりの中でも田舎が有利。農業は結局一人ではできない。試行錯誤しながら農業というものを学んで行って欲しい。」

そんな風に彼にエールを送っていた。

20~30代の若い社員が半数以上で、活気のある株式会社 福成農園。

そんな中で、1次産業を盛り上げようと、楽しみながらも奮闘している立元さんの今後がとても楽しみである。



前山寛文（まえやまひろふみ）/福岡県出身
合同会社ジブンゴト共同代表

～取材者の一言～

同じ移住者でまちで闘う仲間（そして同じ年齢！）として、僕も仲良くさせてもらっています。

あまり深く真面目な話はしたことがなかったのですが、今回の取材を通して彼の熱い部分が知れて刺激を受けました。立元くんは、出会った時から誰に対しても壁がなく、関西のノリでその場をなんだか楽しい雰囲気させてくれる人です。彼とまちで出会ったら、ぜひ声をかけてみてください。